

# ぱれっと

8 2013  
月 No.168

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。



P2～P3

**協働** のまちづくり SENDAI ▷

あらゆる主体のパートナーシップで環境教育・学習を推進

P4

復興へのあゆみ ▷ 東北にもっと人を！復興の現場を見て、知って欲しい  
一般社団法人とほくる【東北震災復興ツーリズム協会】

P5

サポセン 販売書籍紹介

P6

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ



社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

## あらゆる主体のパートナーシップで環境教育・学習を推進

家庭・地域・学校・NPO・事業者・行政等あらゆる主体がパートナーシップを構築し、環境教育・学習を推進している FEEL Sendai (杜の都の市民環境教育・学習推進会議)。10年にわたり継続されているパートナーシップと、その取り組みについて、事務局の柳川春奈さん(写真右)と鈴木雄登さん(写真左)にお話を伺いました。



▲ 仙台市環境交流サロンにて

### 「仙台市環境教育・学習プラン」が原点

FEEL Sendai は、仙台市が2002年に策定した「仙台市環境教育・学習プラン」の提案を受け設立された会議体で、その活動を通して106万の仙台市民が環境に配慮した行動をとる人となることを目的としています。環境NPOなどが作成した環境学習プログラムを教育の現場に届ける「杜々かんきょうレスキュー隊」や、小学生とその親世代、祖父母世代を対象に、家庭などでの省エネを呼びかける「せんだいエコ・チャレンジ」、市民への環境問題への意識喚起を促す「環境フォーラムせんだい」、市民から環境問題への取り組みを募集する「環境社会実験未来プロジェクト in 仙台」など、環境NPOとのパートナーシップも生かしながら子どもから大人までを対象とした様々なプログラムで環境教育・学習を推進しています。

FEEL Sendai を構成している委員も、環境や教育に携わる、個人・市民センター・学校・NPO・事業者・行政など実に多彩です。各委員がそれぞれの立場から活発な発言を行い、各プログラムの運営に関わることで、多様な視点を伴ったプログラムが生まれています。

### 若者の力を環境NPOに

FEEL Sendai が環境NPOとのパートナーシップを続ける中で見えてきた課題は、多くの環境NPOで中心となっているメンバーの高齢化が進んでいることでした。活動を活性化し、また若い世代へと環境教育を継続していくためには、若い世代を取り込むしかけが欠かせません。そこで4年前に新たに始めたのが、若者が環境NPOの活動を体験する「せんだい環境ユースカレッジ」です。このプログラムは公募で集まった若者を対象に、環境についての座学と環境NPOでの活動体験、環境フォーラムでのブース出展などを経験してもらうものです。参加している若者は卒業などで入れ替わりますが、若者ならではの情報発信力を通して、若い世代へと環境NPOの活動が伝わることを期待できます。

#### 団体紹介

#### FEEL Sendai

(杜の都の市民環境教育・学習推進会議)

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目7-17

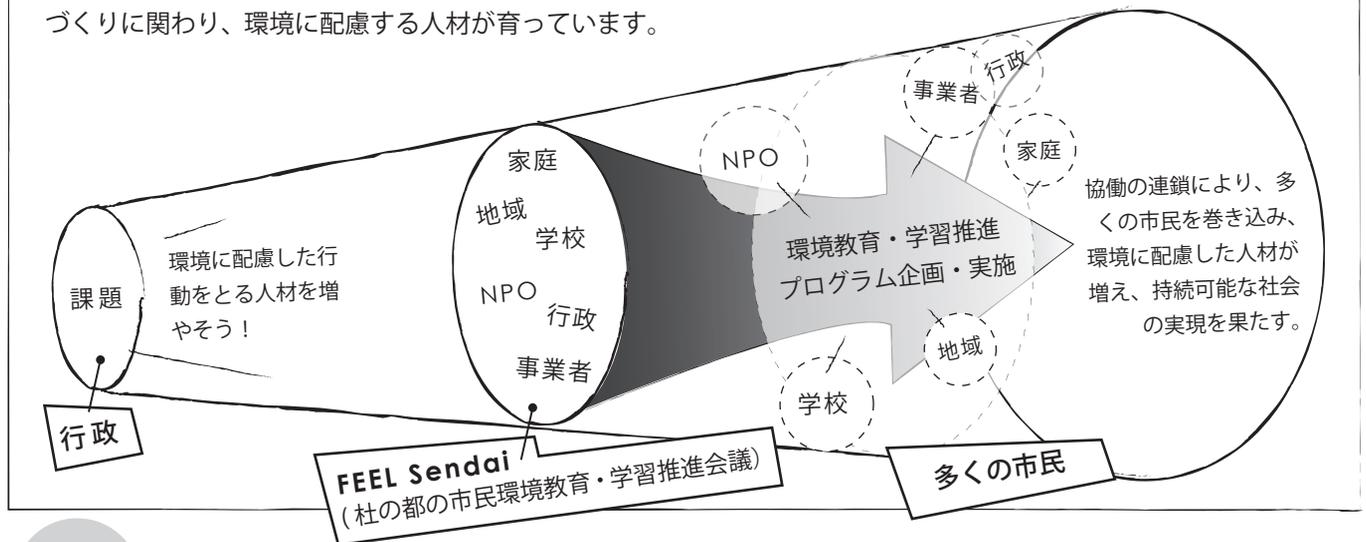
小田急仙台ビル9階(仙台市環境局環境都市推進課内)

TEL 022-214-0007 FAX 022-214-0580

HP <http://www.feel-sendai.jp/>

## 協働のポイント

行政だけでなく、あらゆる主体がパートナーシップをとり FEEL sendai という会議体がつくられています。これらの主体が協働で様々なプログラムに取り組むことで協働の連鎖が生まれ、より多くの市民が持続可能な社会づくりに関わり、環境に配慮する人材が育っています。



### さらなる協働のかたち

市民団体等から環境配慮行動を広げていけるような企画を募集し、FEEL Sendai が社会実験として委託する「環境社会実験 未来プロジェクト in 仙台」。実は、ベガルタ仙台の試合会場でのゴミ分別プロジェクトも、この取り組みから始まっています。

仙台市が、「環境に配慮した、持続可能な社会の実現を目指す」という課題解決のために、身近な環境問題をテーマに、市民や事業者、NPO 等とのパートナーシップを図ることのできる先進的な取り組みを募集する形で 2001 年に始まったこの制度は、2004年からFEEL Sendaiが運営しています。従来は、市民・NPO・行政が協働し、市民に広げていけるような環境に関わる取り組みを企画し実施する団体の募集のみを行っていましたが、これでは、小さいグループやまずは試行的に実施してみたい新たな取り組みについて応募しにくいと、もっと入門的な内容でも応募できるよう、2010年から「環境の芽」と「環境の樹」の2部門制になりました。その結果、まずは入門編の「環境の芽」部門に応募し、事業の実施を通じて自信をつけ、活動の広がりが生まれて、協働に取り組む「環境の樹」部門への応募へとステップアップしている団体が出てきています。

さらに今年からは、応募団体と密にやりとりをして制度の理解と、団体のパワーアップを図っています。「審査を担当した委員の皆さんが、応募された企

画をよりよい事業にするため、団体のステップアップにつながるための助言をくださるので、それを団体に伝え、その意図を盛り込んだ企画にしていくという行程を重ねました。その結果、公開プレゼン前に辞退した1団体を除く、応募6団体すべての事業が採択となり、過去最大となりました」とFEEL Sendai 事務局の鈴木さん。応募団体の本来の活動をベースにしつつ、いかに新しい企画・新しいつながりを盛り込んでもらうかに注力したそうです。「新しいつながりという面で、事務局から積極的に団体へ情報提供しました。NPO・学校・市民センターなど多様な方が参加しているFEEL Sendaiのネットワークがあるからこそできることです」

改善を重ねながら継続し、多くの協働を生み出してきた環境社会実験。あえて課題をあげるとするとどんなことなのでしょう。「制度が始まって十年以上が経ち、仙台市の環境団体の活動も成熟期に入っていることもあって、新規団体の応募が減少しています。新たな環境団体が生まれるような土壌づくりや、環境団体に限らず、制度をもっと広く周知して、いろいろなテーマで活動している団体が、環境という視点で活動を考えてもらえるきっかけをつくりたいと思います」と柳川さん。実際、去年は音楽イベントの団体から環境に配慮したイベントの実施ということでの応募もあったそうです。この制度を通じて、分野を超えた協働が生まれ、環境の視点がもっと市民に広がることが期待されます。(太田貴)

## 東北にもっと人を！復興の現場を見て、知って欲しい

一般社団法人とほくる【東北震災復興ツーリズム協会】は、2012年度の内閣府の復興支援型地域雇用創出事業に応募。『復興現場の歩き方』出版プロジェクトが採択され、被災地のガイドブックの作成を開始しました。社会貢献のため取得できる会社の休暇制度を利用し、震災直後から宮城県災害ボランティアセンターなどで支援活動を行うなかで、現地のガイドブックの必要性を感じ、その実現に奮闘した代表の瀧澤勇人さん(右写真)にお話をお伺いしました。



### ひとりの支援者の想いから始まる復興支援

震災から時間が経ちガレキなどの撤去が進むと、ボランティアの数も減り、被災地を訪れる人も少なくなってきました。現地に開設された復興商店街などからは、「もっと人が来て欲しい」という声も聞こえてきました。また被災地の多くが更地に近い状態になり、遠方から訪れた人々には、震災前から人々の暮らしがあることなど想像できず素通りしてしまうという状況を見聞きした瀧澤さん。「たくさんの人々に被災地に来てもらい、現場の今を見て欲しい」と考え、震災前後の町の写真や地図、復興商店街の様子や支援施設・団体などを紹介するガイドブックの作成に取り組みました。

宮城県沿岸部15市町の被災地の情報を網羅する冊子作成のために、ボランティアを募集しました。サポセンなどの公共施設にチラシを配布したり、支援活動で知り合った方へメールを出したり、フェイスブックを活用するなどして仲間の輪を広げていきました。集まったボランティアは15人。皆さん編集経験はほとんどなく、ゼロからのスタート

でしたが、取材同行や地図制作、データ入力などの作業を分担し編集作業を行いました。こうして賛同者が増え多くの人々の力が結集し、出来上がったのが『復興現場の歩き方』です。

### ガイドブックを通じて被災地に人を呼びたい

2013年5月に宮城県版が完成。今年度は、宮城県2014年度版と岩手県版を、次に福島県版を作成したいと計画しています。課題は資金調達と人材の確保。資金は、今年度の売上げをすべて復興支援のための寄附金として扱い、次の取材活動費および出版費に充当し、足りない分はいくつか助成金の申請をする予定です。活動のための人材は、随時ボランティアを募集していくとのこと。「想いを発信していると、不思議とそれが伝わり、つながっていくんですよ」と、瀧澤さん。

1000部印刷したガイドブックの販売も好調な滑り出しで、「こんな本が欲しかった!」と、読者からの反応も良いと言います。被災地に関心を持つ人が、復興の現場に継続的に訪れ支援を続けることで、復興が促進され東北の発展につながることを信じ、「とほくる」のチャレンジが続きます。(葛西淳子)

### 団体紹介

一般社団法人とほくる【東北震災復興ツーリズム協会】

代表 瀧澤 勇人さん

TEL 070-6564-9980 FAX 020-4663-3053

E-mail otegami@tohokuru.com

HP <http://tohokuru.com>

〒980-0811

仙台市青葉区一番町4-1-3仙台市市民活動サポートセンター内LC. 66

『復興現場の歩き方 宮城県2013年度版』1,000円(税込み)

※仙台市市民活動サポートセンターでも販売しております。

## サポセンの 販売書籍紹介

NPO や市民活動団体は、自分たちの活動や取り組む社会の課題を広く知ってもらうため、活動報告書や書籍を発行しています。サポセンでは、主に地元の NPO・市民活動団体が発行する書籍（報告書やテキスト等）をお預かりし、図書販売コーナーにて代理販売をいたしております。詳しい本の内容は、サポセンブログをご覧ください。

[http://blog.canpan.info/fukkou/category\\_21/1](http://blog.canpan.info/fukkou/category_21/1)



	書名	発行団体	価格(税込み)
1	地域散策 仙台の三十三観音を訪ねて巡る	NPO 法人楽遊ネットワーク宮城	2,500 円
2	仙台市北西部散策ガイド 杜の散歩道	八幡地区まちづくり協議会	1,500 円
3	携帯電話基地局の真実	携帯電話基地局問題を知らせる会	500 円
4	震災記録マンガ「ねえねえしってたあ？」 ①ベーシック ②ひらがな ③英語	三陸こざかなネット	①②300 円 ③500 円
5	復興現場の歩き方 宮城県 2013 年度版	一般社団法人とほくる 【東北震災復興ツーリズム協会】	1,000 円
6	忘れない 伝えよう つながろう 東日本大震災の記録 宮城	泉区福祉ガイドブック作成委員会	1,050 円
7	青葉山自然観察ガイドブック	青葉山の緑を守る会	1,000 円
8	ありがとう (CD)	SENDAI NPO 子育て応援隊ピンポンパン☆	1,155 円
9	放蕩息子～ある薬物依存者の記憶～	NPO 法人仙台ダルク・グループ	1,600 円
10	バーラちゃんの非常食 BOOK ～もしもの時に困らない食生活のために～	仙台市地域活動栄養士会 子どもの食事研究グループ	500 円
11	3.11 キラクのキロク ～市民が撮った 3.11 大震災記憶の記録	NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台	2,100 円
12	3.11 キラクのキロク、そしてイマ。	NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台	2,100 円
13	笑顔をつなぐ「食」の楽しさ 大切さ	食育 NPO 「おむすび」	500 円

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

8月31日

シニア活動支援センター  
NPO活動お試し体験企画

みんなで、まち美化活動に  
でかけてみませんか。



案内人 NPO 法人 greenbird (グリーンバード)  
仙台チーム 太田 貴 さん

ごみ拾いのボランティア活動を一緒に体験していただきます。また、まち美化活動やシニア活動支援センターの紹介もいたします。ぜひこの機会に、地域・社会貢献の活動を知り、参加の仕方を見つけてみませんか？

日 時：2013年8月31日(土) 午前10時～12時

集合場所：仙台市市民活動サポートセンター1階

参加費：無料

持ち物：帽子・タオル・飲み物(ごみ拾いの道具は準備しています)

定 員：10名(先着順)

対 象：以下の方におすすめです。

- ・地域に密着した活動に、興味・関心のある方
- ・地域・市民活動の内容や参加の仕方について知りたい方
- ・シニア世代が活動している事例を知りたい方
- ・シニアセンターの活用方法を知りたい方 など！

※ ご夫婦やお仲間同士でのご参加も大歓迎です！

お申込み：仙台市シニア活動支援センター

TEL：022-217-3983 FAX：022-217-3984

つながる つなげる サポセン

▶仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

▷仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

▶相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3階に集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

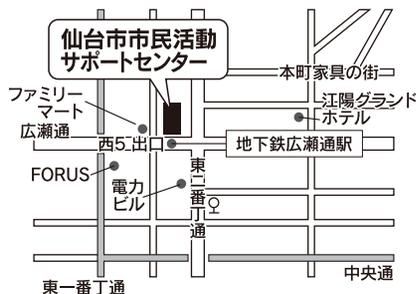
このようなご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談など

相談時間

- ・平日：午前10時～午後8時
- ・日祝：午前10時～午後5時

▷ご案内図



○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

- [最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前
- [地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

▷「ぱれっと」読者アンケート  
にご協力をお願いします！

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



編集後記：

7月24日の休館日、サポセン1階のレイアウトを少々変更しました(表紙の写真をご覧ください)。受付周りをスッキリさせたり、外からも目立つようにエントランスに看板を置いたり、スタッフ総出で大胆かつ繊細な作業の1日でした。翌日にさっそく利用者の方から「見やすくなった」と言っていたと、筋肉痛が少し報われたサポセンスタッフ。どのように変わったか、ぜひ実際にサポセンにお越しください！

発行：仙台市市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2013年8月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター

編集人：菊地竜生 菅野祥子 田口博徳 葛西淳子 松村翔子

▽開館時間

平日：午前9時～午後10時 / 日祝：午前9時～午後6時

▼休館日

毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)

及び、年末年始(12/29～1/3)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010年4月1日～2015年3月31日]